

「夏休み特別企画 探ろう！郡山から見える活火山」出展報告

小松原 純子¹・伊藤 順一²・内野 隆之³・山崎 誠子⁴・木尾 竜也⁴・佐藤 努⁵・柳澤 教雄⁵・
中川 圭子⁵・石原 武志⁶・石橋 琢也⁶・鈴木 健士⁶・渡邊 教弘⁶・岡本 京祐⁶・斎藤 真¹

1. はじめに

産総研福島再生可能エネルギー研究所(以下FREA)が位置する郡山市に、2025年3月に郡山市歴史情報博物館がオープンしました(写真1)。この新しい博物館で2025年7月26日(土)～27日(日)の2日間にわたってFREAと合同で火山に関する一般向けの体験型展示を行ったので報告します。

すでにFREAは4月中旬の5日間にわたって関係機関連携事業第1回として「産総研 福島再生可能エネルギー研究所(FREA)～発見！国立の再エネ研究所～」という展示を行っており、産総研が郡山市歴史情報博物館で展示を行うのは2回目になります。

2. 出展内容

イベントは「夏休み特別企画 探ろう！郡山から見える活火山」と題して(第1図)、郡山市周辺の活火山を中心に、



写真1 郡山市歴史情報博物館の外観。

夏休みの子どもたちに地質について知つてもらうことをテーマに展示を行いました。

多目的ルームではパネル、岩石試料、サイネージ、床貼り地質図によって福島県の地質について紹介しました。特に磐梯山と安達太良山の地質については5万分の1地質図と岩石試料を用いて説明し、明治時代に発生した火山噴火について解説しました。また、郡山市や福島県に関連する



第1図 イベントのポスター (FREA 产学官連携推進室作成)。

1 産総研 地質調査総合センター連携推進室

2 産総研 地質調査総合センター

3 産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門

4 産総研 地質調査総合センター活断層・火山研究部門

5 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

6 産総研 再生可能エネルギー研究センター

キーワード：FREA、火山、噴火実験、標本館グッズ、郡山市歴史情報博物館、地質図



写真2 展示場所である多目的ルームの様子。



写真4 安積疊水のパネルを説明する様子(山口雄一氏撮影)。



写真3 床に貼った大判の地質図(床貼り地質図)を解説する様子。

地球科学図や地質標本館グッズの有料頒布を行いました。

多目的ルームを出たところのオープンスペースでは、火山の噴火を子どもたちに体験してもらう、体験型の噴火実験を1日3回行いました。

3. 当日の様子

博物館の入口から多目的ルームはすぐのところにあり、床に貼ってあるカラフルな地質図に興味を持って入ってこられる方が多くいらっしゃいました(写真2)。阿武隈高原の主体をなす白亜紀の花崗岩や、磐梯山などの第四紀火山の分布など、福島県や東北地方の地質の特徴について説明しました。特に福島県の西側に火山が多く、東側には全くないこと、それが海洋プレートの沈み込みに関連しているという説明に興味を持ってくださる方が多かったです(写



写真5 展示パネル、岩石試料の説明をしている様子。手前のピンクのラベルが磐梯山、奥の白いラベルが安達太良山の試料(山口雄一氏撮影)。

真3). ほかにも、郡山市の方々に身近な安積疊水が造られた背景を郡山の地形・地質環境とも関連付けながら紹介するパネル展示なども行いました(写真4)。

岩石試料は磐梯山と安達太良山の噴火ごとの溶岩、半田銀山と高玉金山の鉱石、福島県の代表的な岩石をそれぞれのパネルの前に展示し、重さや感触を自由に触って確かめられるようにしました(写真5)。同じ山の溶岩でも噴火ごとに少しずつ色や組織が違うことや、花崗岩は重くて石炭は軽く、雲母はすべすべしているなど、実際に体感して



写真6 噴火実験は、博物館のオープンスペースにて実施した。ディスプレイを用いた解説の後、ブルーシート上で噴火実験、写真左側のテーブル上で溶岩流下実験を行った（伊藤順一撮影）。



写真8 クエン酸と重曹を使った噴火実験（上原由記子氏撮影）。



写真7 軽石と溶岩の違いを参加者に確かめてもらっているところ（山口雄一氏撮影）。

いただきました。

噴火実験は、階段状の座席があるオープンスペースにて実施しました（写真6）。まず火山から出てくるものとして水に浮かぶ軽石と沈む溶岩の2種類を触って確かめるとこから始まり（写真7）、重曹とクエン酸と洗剤を入れたペットボトルに注射器で水を入れて吹き出る泡を溶岩流に見立てた噴火実験（写真8）と、小麦粉を水で溶いて色を付けた「溶岩」を火山の立体模型の上から流す実験（写真9）の2種類を行いました。いずれも子どもたちに実際に手を



写真9 小麦粉を水に溶いた溶岩を立体の富士山に流している様子。

動かしてもらい、自分の入れた水で噴火が起きたり、小麦粉の溶岩を好きなところから流してみたりという体験を通して、噴火のイメージや火山活動を実感してもらいました。2日目の実験では噴火の勢いが予想以上に激しく、新しい博物館の天井に届いてしまうのではと心配しましたが、無事終了しました。

有料頒布では、北海道から九州まで6地域ある地質図クリアファイルのうち、福島県が含まれる地域のものがやはり最も多く売れました（写真10）。ほかにも、表紙に石英



写真 10 地球科学図・地質標本館グッズの有料頒布の様子。地質標本館グッズは好評を博した。

の写真があしらってある自由帳も親子連れに人気だったようです。

来場者は 2 日間合わせて約 290 名と大変盛況でした。

4. 終わりに

このイベントに足を運んでいただいた郡山市の地元の方々にとって、身近な火山に関心を持つきっかけとなり、福島県の地質について理解を深めていただけたら嬉しく思います。さらに、産総研や FREA、地質調査総合センターについても認知していただく機会になったのではと思います。

この企画はもともと FREA からお誘いいただいたものでした。箱崎早苗さんを中心とする FREA 産学官連携推進室

の方々からは様々なアイデアをご提案いただき、また会場レイアウトや博物館とのやりとり、ポスター・チラシの作成、現地での設営や当日の会場案内など、大変お世話になりました。また、嶋根裕一館長を始め郡山市歴史情報博物館の方々には会場に関して様々な便宜を図っていただきました。御礼申し上げます。

KOMATSUBARA Junko, ITOH Jun'ichi, UCHINO Takayuki, YAMASAKI Seiko, KONO Tatsuya, SATO Tsutomu, YANAGISAWA Norio, NAKAGAWA Keiko, ISHIHARA Takeshi, ISHIBASHI Takuya, SUZUKI Takeshi, WATANABE Norihiro, OKAMOTO Kyosuke and SAITO Makoto (2026) Report on summer vacation special exhibition: Let's explore! Active volcanoes seen from Koriyama, at Koriyama City Museum of History.

(受付：2025年8月12日)